

ねらい

目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

授業アイデア例

※ 言語活動を通して指導事項を指導していくことが重要である。言語活動が充実するよう以下に指導案例を示す。(大問2)

- 1 単元名 おすすめの「本のショーウィンドウ」を作ろう
～登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる～

単元名は言語活動例で示す。副題として指導事項を挙げ、身に付けたい力を明確にする。

- 2 単元の目標
登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えを「本のショーウィンドウ」にまとめ、交流する活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。


- 3 単元の評価規準 (略)

付けたい力を身に付けさせるために、ふさわしい言語活動を選定する。言語活動の特徴を的確にとらえることが重要。教師自身がまず作成、経験すること!

- 4 言語活動の特徴

本単元の柱となる言語活動は、「自分のおすすめの本のショーウィンドウを作る」である。「本のショーウィンドウ」は、ベルリン・ブランデルブルグ州立学校・メディア研究所で開発された、本の紹介のための教材である。この言語活動では、本のショーウィンドウを作る際に、「最も強く心に残っている場面の絵を描く」コーナーや文章展開のおもしろさを「トップリードにまとめる」コーナー、登場人物の生き方に触れた「人生のターニングポイント」コーナー、自分が感じた「作品の心」とその理由を書き込む「ここが一番すごい」コーナーなどを位置付けた。(後略)

5 単元指導計画 (9時間)

	学習内容	主な評価規準
第一次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 同一作者の本などの関連図書の読み聞かせを聞き、動物と人間とのかかわりについての感想を交流する。 教材文「大造じいさんとがん」の読み聞かせを聞き、感想を交流し、自分が選んだ「おすすめの本のショーウィンドウ」を作って、物語を推薦するという学習課題をつかむ。 	<p>【関】「動物と人間のかかわりについて」のテーマのもと、本を選び進んで読もうとしている。</p> <p>【読】単元と教材のねらいをつかみ、物語を読み、感想を交流している。</p> 
第二次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 時と出来事に着目し、物語のあらすじを読み取り、文章構成のおもしろさを「ショーウィンドウ」の一コマにまとめる。 大造じいさんの心情の変化とそのきっかけを読み取り、「ショーウィンドウ」の一コマにまとめる。 表現のすばらしさ(行動、会話、心内語、情景描写)に着目し、大造じいさんの人物像をとらえ、「ショーウィンドウ」の一コマにまとめる。 題名に込められた意味や「作品の心」について話し合い、「ショーウィンドウ」の一コマにまとめる。 	<p>【読】文章構成に着目し、物語のあらすじを「ショーウィンドウ」のトップリードにまとめている。</p> <p>【読】登場人物の心情の変化とそのきっかけを見つけ、登場人物のターニングポイントをとらえて、物語を推薦するために、自分の考えをまとめている。</p> <p>【読】場面の展開に沿って読み、感動や安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目し、人物像をとらえて、物語を推薦するために、自分の考えをまとめている。</p> <p>【読】象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容に気付き物語を推薦するための「作品の心」をまとめている。</p>
第三次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 自分が推薦する本の「ショーウィンドウ」を作る。 作成した「ショーウィンドウ」を読み比べ、物語のおもしろさを見つけ、読書の幅を広げようとする。 	<p>【書】「大造じいさんとがん」の「ショーウィンドウ作り」で学んだことを生かし、自分の推薦する本のショーウィンドウを作っている。</p> <p>【関】推薦文を比べて読むことを通して、様々な違いを発見する喜びを知り、読書の範囲を広げようとしている。</p>

ねらい

目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。

授業アイデア例

※ 出題の趣旨を踏まえ単元化して指導する例（大問7）

第一次（一時間）

〈主な学習活動〉

1 チラシの特徴や生活経験について話し合った上で、学習課題「目的に応じ、効果的な1分間スピーチを作成しよう」を設定し、学習計画を立てる。

- チラシを基に飼い主の目的やその特徴をとらえるようにする。
- 第三次で取り上げるチラシ（案内文や宣伝文、広告文等）を選ばせる。

単元を貫く
言語活動

【具体例】



目的に応じて効果的な1分間スピーチを作成しよう

第二次（三時間）

2 ⑦（設問2, 3）を基にし、目的に応じて、必要となる情報を取り出したり、複数の文章を関連付けたりしながら、互いの考えを発表し合う。

【設問2を用いる場合】

飼い主を探すために必要な情報について書き出し、話し合う。

【設問3を用いる場合】

必要でない情報についてその理由を話し合い、自分の考えをまとめる。



3 ⑦（設問2, 3）を基にし、1分間スピーチの目的や意図、工夫について、互いの考えを発表し合う。

4 ⑦（設問1）を基にし、表現の効果や工夫などについて確かめる。

- ⑦の調査問題を活用し、1分間スピーチの原稿には、目的や意図に応じて様々な書き方があることを理解できるようにする。

A 目的に応じて、必要となる情報を取り出したり、複数の文章を関連付けたりしながら、自分の考えをもつ。

- ・ 目的や相手に分かりやすく伝えるという観点を重視し、情報を的確にとらえる。

B 目的や意図、工夫について、自分の考えをもつ。

- ・ 「興味をもって聞いてほしい」、「分かりやすく伝えたい」という観点からその工夫をとらえる。

□ 文章の間違いや表現の曖昧さを確かめ、よりよい表現に書き直したり、工夫したりすることが大切です。



第三次（三時間）

5 各自が収集したチラシを基にし、第二次のそれぞれの書き方を活用しながら、自分の考えをまとめ、交流する。

- 第二次の書き方の観点に触れることができるようにする。
- ・ これらの観点を日常の学校生活においても活用することを促す。